

(上包)

亡父広助千辛

四国

西国 順礼道中記

万苦之記念物

(002)

亡父広助殿廿八才ノ時 今庄

若狭屋弟権五郎氏ト共々

四国西国順礼ヲ思立チテ明治

五年四月一日今庄ヲ発シ山城大和

伊勢伊賀紀州ヲ経歴シ夫レヨリ

四国ニ渡リ普ク霊場ヲ参拝シ

終リテ大阪ニ入り再ヒ西京ニ戻リ終ニ

七月十三日ニ無事帰宅セラル 其間日数

実ニ百有三日 千辛万苦ヲ尽セリト云フ

可シ 予親シク其困難ノ状況ヲ父母

ヨリ聞故徐々往事ヲ追懐シテ感慨止

マズ、偶本箱ヲ掃徐(除)シテ此道中記ヲ

探シ出セリ 熟覽スルニ記事簡單ナリト雖モ

然モ父方曾テ予ホニ語ラレシ所ノ者ニ符合シ候

歴ク其当時ヲ思ヒ起スニ至ル 因テ記念トシテ

長ク吾後世ニ伝フ 明治三十一年一月八日

第二代 広助

(003)

明治五(壬申)初夏朔旦発足

四国

西国順礼道中記

越前今庄(庄) 山口広助

(004)

広吉住所小網町三丁目

稻荷屋伊之助

大伝馬町一丁目

金粕部屋相尋候得ハ

たれニ而も居所相分り申候

一肩ツル 但シ白

一長ジバン 同断

一股引 同断

一ツダ袋 同断

一笠当 同断

ベ五品当所ニテ

整荷物ニ造リ上

都致ス 夫ヨリ姿

転変シテ執行

者之心ニ入ル 白衣

着シテ清浄潔斎

風俗然ト雖内心ハ五欲ニヒ眩煩惱大盜(台頭)也

桑名屋 サク モト 母

宿玉邑庄三郎 玉邑マサ シゲ

平岡イチ 浅野ソメ

澤崎ジュ

右八女共相頼候処

(快)

心能仕立呉神妙之

段感徹至極報謝

之夕録載仕置候也

(005)

餞別覚

一百疋 藤助

一百疋 志ゆ

一百疋 まさ

丁

一貳貫文 庄三

一貳朱 桑もと

いりかし

一白砂糖貳朱斗 桑五

一当七百文 平 おいち

一当六百文 胡常

一木綿五尺 河勘

代三拾匁斗

一さと貳朱斗 同人

一いりこ三升 庄河

一百疋 同人

ㄨ 兩人合ニ而受納

(006)

一壹朱 平蔵

自分方へ

四月朔日

一貳匁五分 休 茶代

同泊り 中河内宿

一貳朱かり 扇屋

此方餞別ニ具候

二日

一三百文 木ノ本

御膳料 地藏様(浄信寺)

同

一百文 御さいせん 同断

同

一三百式拾文 諸雑用

同泊り

一貳朱 長浜灰屋

(007)

同三日 彦根へ行 夫の

一貳百文 観音寺(観音正寺) 江

御納経料

同泊り

一貳百五拾文 同寺籠り礼

夫の同山薬師寺(石馬寺カ)へ参詣

四日

一七拾文 芋代

長命寺へ参詣、夫の「」所迄船二のり

同泊り 草津

一貳朱貳百文 ふらや

五日

一貳百文 勢多の天津迄船也

同

一百五十文 石山寺へ参り

同

一百五十文 三井寺へ参詣

(008)

五日 開帳十八はん

一百五拾文 六角堂参詣

同 十九はん

一百五拾文 革堂参詣

同

一百四十文 せんさい

同

一式百五拾文 てんがく

メ式歩耆朱ト五百分斗

今庄ヨ京都迄造用メ

六日

一耆貫文斗 諸入用

同

一三步式朱三百文

珠数耆れん

一壬生寺厄除地藏へ参詣

御納経貫ふ、夫ヨ

北野天神様へ参詣、夫ヨ

一御室御所(仁和寺)へ参詣、同所

(609)

本尊薬師様開帳、弘法大師様開帳

御宝物不残拝見仕候

御座敷廻り不残、同所ニ而

四国廻り御納経出ル

一此日昼後ヨ雨ふり笠耆かい(蓋)斗ニ而難義

一九条様泉水廻り不残

拝見仕候 右六日巡拝仕候

七日

一嵯峨清凉寺出開帳

京都寺町ニおいて有之

本尊釈迦如来様其外

御宝物有之

七日

一西国拾耆番上醍醐寺

奥之院京都寺町ニ出開帳

女人禁制之所故此般御一新ニ口(なりカ)

諸人詣之為京都迄出開

帳ニ御座候 御納経貫ふ

(010)

四月七日

一清水奥之院牛尾山千手

観音様出開帳御宝物有之

同

一逆蓮花如来御開帳有之

同

一播州赤穂花岳寺観音様

并忠臣蔵義士四十七人不像

其外宝物書類数多開帳

三条橋北へ入所ニ而出開帳御座候

石観音様内蔵之助殿守本尊也

七日

一鞍馬山本尊比(毘)沙門様

魔王大僧正様、京粟田青蓮寺(院)

ニ而出開帳有之、其外

宝物多し、義経弁慶

刀比沙門様劔黄金之外

(011)

同

一知恩院参詣 博覧会

七日

一 祇園様参詣

同

一 八坂塔 庚申様開帳

同

一 清水寺御開帳 御納経貫

同

一 同山滝山寺円光大師

同

一 十三番札所御納経貫ふ

同

一 六波羅蜜寺御開帳有之

七日

一 老貫文斗 御納経貫ふ 其外昼遣以諸入用

同

一 七ツ時大雨ふり 此時宿へ帰り雨ニ不合結構也

七日

一 三步老朱 おいづる老ツ

(012)

四月七日

一 百文 巻紙老本

八日

一 五百五拾文 白脚伴古手老足

同

一 百文 御納経

同

一 三拾文 東寺御納経

同

一 百五拾文 諸入用

一 東本願寺参詣

一 伏見稻荷様御旅所参詣

一 東寺伽藍残す参詣

一 洛陽 番札所へ参詣、弘法様御両親之霊場

一 幸松寺(興正寺)参詣

一 西本願寺参詣

同月五日 京都富小路

(013)

万寿寺下ル処

近彦事

中村知加方へ着

同九日朝出立都合四泊り

近彦方ニ而止宿料不払

帰国仕候迄かり申候

九日

一 京都大仏様参詣

同

一 三拾三間堂参詣

一 今熊野観世音様御開帳

夫の霊宝物拜見仕第一之

御霊法弘法大師へ御さすかり之

老寸八分の観音様御開帳何連も

難有事ニ御座候御納経も貫ふ

同

一 東福寺参詣御涅槃像猫有

幅凡四間斗長九間斗堂卅間四方

其次堂大キサ同断三幅対之

(014)

中掛凡巾二間長九間斗

両掛巾凡式間半長九間斗

一庫裏用木二ハ朝鮮木

高麗木斗二而御建立也

一其余伽藍沢山有之候

九日

一伏見稻荷様拝礼

一藤之森拝礼

同

一那須野与市寺

同

一同人墓

同

一上醍醐寺へ女人堂有参詣此所二而

米壹合貫

同夜泊り

一岩間寺麓笠取村ト申処二而

行暮同村山之中二而番人之処二

五百七拾五文二而米代止宿代共

(015)

一宿頼申候極難渋二御座候

十日

一岩間寺へ参詣御納経貫ふ

一炭山村ト申処二而上醍醐

女人堂有

同

一字治おふばく山万福寺二而御納経貫ふ

同

一大坂人道連二相成当百文呉ル

同

一字治三室戸堂参詣

同

一興聖寺参詣同寺表門

同高老丈斗之岩切拔道敷候

誠ニ結溝(構)御座候

一同寺表門〇十間斗川上ニ

亀岩有是も面白キ岩也

一十日七ツ時〇雨ふりニ而難義仕候

一九日十日造用ベ三百文斗

(016)

四月十日夜

伏見〇大坂迄淀川船ニ乗

賃六百四拾文払

同

一貳百五拾文同所二而夕飯料

十一日九六

一貳百文 天王寺

引導鐘天外秋客

同昼飯代

一八拾文

同

一五拾文御納経式ヶ所

一十一日朝大坂八軒屋へ着船

夫〇太逼寺(太融寺力)へ参詣経納出ル

一紀ノ熊野那知山観音様

出開帳御宝物不残拝見

同

一天王寺参詣御納経貫ふ

同

一堺住吉様参詣

同

一同所妙国寺参詣

(017)

一十一日泊り河内藤井寺前

平野屋新兵衛方へ木賃泊り

銅銭貳拾四文ニ而米代拾八文

ノ四百貳拾文

十二日朝

一藤井寺へ参詣 御納経貫

同

一道明寺天神様参詣

同

一こん田八幡様参詣

同

一おくら大黒天此所日本最初也

一坪井八幡義家公御霊也

奥州宗任貞任之逆盗退

次(治力)之為進発被致候時水

なくし而御立願被成候処

速ニ大地よりわき出其

水越坪ニ入御帰国後御置被成候

(018)

処即池ニ相成坪井トゆふ

十二日

一通法寺観音様参詣

同

一上太子村聖徳皇太子様有

此所へ参詣之処茶飯少し施行有

一当麻山中将姫君様

蓮糸曼荼羅御折(織力)被成候

岩谷有深サ式間巾三間

立卷丈斗之穴有

同

一当麻染寺染池有

同

一大和傘堂有 左甚五郎作

同

一当麻寺参詣まんたら

御開帳有

(019)

一十二日泊り大和国大畠村善右衛門

宿貫ふ

蒲団もなし

枕もなし 不自由也

同

一百八拾文米代十二日泊り

一十三日役行者様御延(誕)生所

同

茅原村吉祥艸寺参詣御納経貫

同

一土佐城下見物

同

一坪坂観音様参詣御納経貫

同

一坪坂奥之院ト申者伽藍ハ
無之候得共岩山候処悉ク
五百羅漢其外三千仏堀附有
是即弘法大師一夜御作也
一式百五拾文斗十二日十三日兩日諸入用
十三日泊り 大和吉野郡サヅ村ニ而
一宿接待ニ候得共蒲団少ニ而寒し

(020)

吉野ノ二十丁斗手前之所サヅ村ニ而
十三日泊り米代
一式百四拾文 右同人ニ而
一吉野山桜夥敷事ニ御座候花盛ニ見物致
候得ハ嘸見事ト被存候

十四日

一大峯山上仕候吉野ノ
山迄六里之間人家なし
式里余り登り候得ハ行者様
母公御乗馬ニ而御登山被成候得共
岩ゴボリ馬足立不申迎も
御登山被成兼候ニ付定ニ
被為入候古跡有此所之
行者様足スレ行者ト号ス
夫ノ五十丁斗登り候得ハ
小天井辻大變成岩壁有
此間大難所也
大天井是も古今珍敷石壁也
是ノ追々奥迄誠ニ難

(021)

洪成石壁驗路也

十五日朝行廻り

是ノ行場鐘掛恐入候
是を鐘掛行者ト号ス
西之ぬすき廿丈斗なる
石壁ニ行者様ト不働(動力)様ト
堀附有之候を逆ニ成テ
拝ミ申候是即ニ之行場也
是ノ裏之行格別之
難所ニ而重々恐入為場所
十八ヶ所有之候
右山上者格別之驗路也
一洞呂川之下り口ニ穴行
迎蛇之居候岩穴有之

(022)

此穴之蛇を行者様
退治被遊候是者山上ノ
三里斗下り候所也深サ八丁も有哉ト申候
十四日泊り
一大峯鐘掛下たら助屋
米□□ 立花作之進
飯喰所 丸屋藤吉
寢所 西村清五郎
山ノ四り 洞呂川村
一十四日昼飯 西村義兵衛
右何れも接待也
一鐘掛下ニ而たら助さま家毎ニ
価百文斗ツゝ貫ふメ十式三軒有

(023)

十四日

一三百文 吉野吉水院二而

金剛杖老本

同 式人

一 一百文 たら助様買

一七ツ時後少々雨ふり申邪麻二也不申候

同

一 一百文斗 さいせん

十五日

一 式百文斗 御山さいせん

同

同泊る

一 老朱 吉野一鳥居前

備中屋松蔵

十六日

一 多武峰参詣仕候処誠二結構

成伽藍十三重塔有、御納経貫

談山大神社ト号ス

同

一 岡寺江参詣、御納経貫ふ

同

一 聖徳皇太子 橘寺

御誕生所 御納経貫ふ

(024)

十六日 日本三ヶ所之霊仏也

一 安倍山文殊尊様参詣

御詠歌二日、新四国十三番

南無文殊 三世の仏の 母ときく

我も子なれば 乳をあたへられ貰う

同

一 此寺に安倍晴明仲磨

兩人古跡有

十六日

一 昼飯多武峯少々下二而頼候処

味噌汁沢庵ト呉ル

一 安倍寺二而米老ツかみ呉ル

御納経出ル

同泊り 木賃米代共

一 四百八拾文 安倍文殊前

きし田や

十七日

(025)

八ばん

一 長谷寺観音様参詣仕候処

毎年四月廿七日御開帳二而

幸我等其日二向い御尊像奉拝候

御丈式丈六尺立像十一面様也

一 老之門の書くかいろふ百卅六間有

此間二悉く大提灯三ツ宛釣惣メ

四百有余、其外塔堂伽藍坊守

至迄不残結構本堂者掛造二而

舞台者京都清水同様二而境色

宜敷地二御座候、夫の慈恩寺村へ

戻り昼弁当仕候、沢庵茶等

三条鍛冶二而施待二預り申候

同

一 三輪明神様参詣、此社も

相応之結構之地ニ御座候

同

一五拾文 万能膏巻つ 追分村

同

一五拾文 御納経御札等 初瀬寺

同泊り 木賃米代

一五百廿文 法隆寺大門前泊り

(026)

四月十八日

一百九拾御納経六ヶ所貫ふ

同

一竜田明神様参詣、各高キ宮ニ

候得共割合ニハ麓末之社ニ御座候

一竜田川紅葉右社ニ四丁斗

西也、紅葉秋は随分宜敷様子

御座候

同

一法隆寺伽藍聖徳太子様

御建立ニ而古キ物ニ御座候得ハ誠ニ結構之

堂塔伽藍ニ御座候、当寺の御仏者不

残黄金仏ニ御座候、中ニも天竺仏

四十八体有之、内壹体為拜

跡者宝蔵納り有由被申候

一西之堂下申薬師如来之有、六角

之堂ニ劍類鏡等奉納之事也

御堂一はいニ御座候、両様共納経貫ふ

一小泉之庚申如来参詣仕一国一宇

之地也、中々結構之地也

一同所ニ輪奈良吉卜申職人ニ札挟ミ

桐之木ニ而兩人老ツツ、預奇附、難有事也

同

(027)

同

一郡山城下見物致候

同

一奈良南円堂参詣、納経貫ふ

一猿沢之池見物、鯉鮒多分人ニとられ

最早少々残り居候得共只今者

人ニをそろしがり申候

同

一右南円堂境内ニ而弁当致候処、女

小供両三人参り候而弁当余分も持参候哉、握り

飯四ツ高野豆腐砂糖たキ式切呉ル、誠ニ

結構之味ニ御座候、同所ニ而一時斗昼寝仕候

同

一春日社へ参詣仕候

同

一手向山八幡様参詣

同

一三月堂本尊千手観世音様

同

一二月堂本尊十一面観音様

同

一大仏大かね

同

一大仏様

同泊り

一奈良の八丁斗東ニ当り

白ごぶじ村と申所之善助方ニ而

一泊り頼入候処米も弁当迄沢山被下候
難有事ニ御座候、村ニ而頭分之人ニ御座候

(028)

十九日

一右白くふじの奈張越ニ而伊勢へ

参詣仕候、奈良のな張迄山中

七り半御座候、難渋之道ニ御座候

一十九日泊り、伊賀奈張郡新田井筒屋方ニ止宿

五百卅文宿料払

一廿日、夫の阿上村ト申処迄巻り

夫のあを山三里、此峠伊賀伊勢

国境也、此所ニ伊賀茶屋式軒有

伊勢茶屋老軒有、此青山峠と申ハ

木老本もなし、四五り斗も青草斗也、夫故

青山峠と号ス也、其日都合拾巻り半ニ

伊勢六軒迄出る

一廿日泊り、六軒窪田屋ニ而旅籠老朱て泊り

一廿一日、昼弁当明星村安養禅寺庭ニ而

たべ申候、彼寺廢寺ニ相成留主居坊主

老僧罷在竹之子汁沢庵等呉ル

一廿一日、八ツ時外宮様遂拝礼申候

夫の二見浦婦夫岩日之入拜礼

同所貝売小屋幸成哉両三軒も

留主ニ付中ニも工合能よふな所々ニ而

夕朝共いり粉ニ而一泊り致候得共

(029)

格別不自由ニも無之候、老朱三百文

宿料助り申候、翌日昼飯も薩摩

芋七拾文ニ而相立申候

一廿二日朝二見浦ニ而日之出拜礼、誠ニ

明ニ御座候、少し左之方ニ富士山も見へ申候

日様御上り被遊後者見へ不申候

同

一夫の朝熊嶽へ登山仕候

同

一夫の内宮様宇治橋へ下り

同

内宮様遂拝礼申候、両宮共未社

被廢、風之宮雨之宮高之宮斗御座候

同

一天の岩戸被廢候

同

一両宮二見朝熊さいせんべ式百文斗

同

一三拾五文、貝代

同

一四拾文、櫛代

同

一老朱、万金丹

同

一老朱ト式拾文御祓様代

同泊り

一老朱ト百文、田丸扇や仙蔵

十八日郡山ニ而

一老朱半、紙帳代二ツ割

八日京都ニ而

一五百五拾文、脚伴老足古手也

(030)

四月廿二日泊りニ而田丸宿扇や仙蔵

一九拾文、わらんじ壺足

田丸次之村はら村

一手引觀世音、御詠歌二日

熊の路を道引たまへ觀世音

清キ不淨の人は選ます

同

一柳原順礼手引觀世音様参詣

右二ヶ所者御納経貫ふ

廿三日

一四拾文、諸造用田丸の三瀬迄道法六里半

同

一三瀬邑安平方ニ而施待宿貫ふ、八ツ半時

二候得共格別雨ふりニ而難義、無抛頼む

同

一米代三百文払、同人方へ

同

一此日小阪二ツ越ス

廿四日中天氣、朝三瀬の舟渡し有之

次ニ峠まゆみト申宿有、次ニ伊勢ト

紀伊ト国境也、此所梅ヶ谷小阪ト申坂有

夫の長嶋迄町家也、夫の阪二ツ越て

どふぜ村卯吉ト申族頼泊貫ふ

其隣家庄屋ニ而米壺升買、代式匆五分

そら豆生三四合斗貫ふ、飯ませ

誠ニ味能悦申候、此日造用式百文斗

峠四ツ、道法七リ斗

(031)

廿五日上天氣、朝峠壺ツ越ス、夫の三浦へ

出、又はしかみ坂馬瀬へ出候、次ニふなつ村

楠三郎兵衛ト申大家有、此ニ而昼飯

貫ふ、次ニ尾鷲ト申町家有、同所八郎兵衛ト申

極大家有、是ニ而米式合斗貫ふ、次之

まごせ阪ト申坂有、此峠左之峰ニ

天狗迎大岩有、此麓ニ大師御作之

石仏有ト申事ニ御座候

是尾鷲之前也

八鬼山峠ニ日輪寺有、本尊

三宝大荒神様、御納経貫ふ

式拾四銅納候也、此峠上り五十丁

下り四十丁余、上下共難所也

次三木ト宿有、同所龜右衛門ニ而

一宿頼、米五合貫代壺匆也、七合斗

諸所ニ而貫ふ、そら豆も五合斗貫ふ

一小錢七八分斗も貫ふ、此日諸用

斗百文斗、道法五十丁、壺人ニ而七里半斗

峠四ツ越ス

廿六日、尾わしの曾弥迄二り之間小阪二ツ

此阪ハ近辺之者ハ阪なしト申所也

(032)

廿六日上天氣也、曾祢村氏神様参詣

仕候処御社者鹿抹二候得共境内御神木ハ

誠ニ結構成大木ニ御座候、凡五だきの六だき

位之木沢山有、夫の少々ちさき木ハ

猶更沢山御座候 伐たをせし者海也

夫の曾祢太良阪曾祢次郎阪難所也

逢神阪有大ふき阪あたらか村

二而昼飯乞候処大家四軒二而
茶碗壺はいツ、もらい申候、其外
錢四五文ツ、貰申候、五六軒有

此先之宿にき嶋ト申候処ニ夕飯壺はい
茶等貰ふ木之本入口ニ少阪有之

此所ニ見崎ニ鬼岩屋有

此穴畳疊凡千畳敷ト申候

得共六百位之事ニ御座被申候

尤中上段下段有鬼住居

之地也

田村將軍此鬼退治被成候

夫故田村丸建立之觀音堂有也

(033)

一廿六日泊り木之本三嶋利口方ニ

此所凡家數五六百位之家立能町也

宿へ着致時刻少々早キ故大家斗

拾軒斗ほふしや致候処白壺升五合

錢百文斗貰申し候

一廿七日上天氣朝出立仕夫の木之本

町ニ而わらんし貰ニ歩行候処当

百壺枚呉ル、又壺軒わらんし壺足呉ル

其余者五文拾文ツ、呉ル 都合拾軒斗

相頼申候

一いつち村大師様参詣仕候処

同山ニ而尾州知多郡成岩村

船分沖徳丸市太郎

紀州いつち村友右衛門兩人

遍路壺人ニ付八半櫛式合ツ、

施待ニ預り式人合て米八合貰ふ

一木之本有馬迄半里此間海辺
誠ニ面白キ岩屋數多有此岩穴ニ
乞食之様な者住居仕候穴四ツ五ツも
有之候、皆表江戸をさし居候

(034)

夫の木之本入口ニ花之岩屋迎神様之

祝込有之候

一木之本七り浜迎松原之浜辺也

此浜に親しらす子しらすト申難所有

波あらし時ハ遍り道有候

廿七日熊野新宮様へ参詣奥之院被廢

結構之堂伽監も立ぐさりニ相成候

御山之下ニ拝殿仮立有之

廿七日泊り、新宮町ニ五六丁斗

行て常念佛浄土宗寺有

即真如寺ト号ス、是ニ而一泊頼候得共

どふも此寺ハ人焼場之寺様被存誠ニ

氣持悪敷候、乍併施待宿ニ而錢不入

ニ付有難事ニ候、廿三日ニ廿七日迄

七晩宿施待此間ニ漸兩人合て金壺朱

遣い申候 木之本ニ新宮迄道五り斗

一廿八日朝大雨降ニ而誠ニ難義致候へ共

五ツ半時ニ雨晴難有事ニ御座候、昼後

那知山觀音様へ参詣仕候処御一新ニ付昨年

未九月ニ山ニ御下り被成市野ノ村申処迄

飯寺へ被為在候、御納経料百文ツ、御座候

那知権現様夫ニ御滝へ拝礼仕候、誠ニ

結構之滝ニ御座候、真中不動明王様

切付有之候

(035)

那知権現様へ御納経も百文ツ、也
一同日昼飯時補陀落寺観音様参り

御納経料御頼料共兩人合ニ而式十四文上ル

一廿八日泊り妙法山阿弥陀寺ニ而泊り

籠り料為五百文ツ、とられ候

米代半朱也道者下ニ而買故少し

下直ニ御座候、此日壹日之造用ズ

彼是式朱斗も入申候、此寺本尊様

釈迦様御直作弥陀如来ニ而壹佛

一躰之御尊像也 徳川御治世之時者

坊主七拾人斗も暮し候大寺ニ候得共

御一新二付▼¹²²³⁷⁸□寺被仰付十七軒四方

之本堂焼払坊主不残げん俗

致居候、乍此壹兩日前京都

御召状着ニ付おふかた此度者出家

御免ニ相成寺後も御免ニ相成哉ト

被申候、此寺ハ格別之由緒も有之由

死人不残参詣仕候様子ニ而折々変事

有之様子嘶居申候様

廿九日

大雲取坂上下五十丁四り之山ニ而

(036)

難渋至極雨ふり之時ニハひる出誠ニ難義

御座候様

由被申候、我等通行致候節者上天気ニ而

悦申候、夫の小雲取峠逆五十丁二里

是も極難義之山ニ御座候、夫の受川村

夫の湯之峰、小栗判官様病氣

全快之湯也、是ニ壹泊致旅籠

壹貫口入ニ而湯之峯橋爪源八ト申方ニ泊り申候

四月晦日朝入湯致薬師様ニ而

御納経貰ひ夫の出立仕候、朝雨ふり

昼時降休昼後又ふり出ス難義

四ツ時本宮様参詣仕竹之坊ニ而

御納経からず御府拾枚両様ニ而半朱

上納仕候外ニ造用式百文斗本宮の二里斗出ル

夫の大和十津川江はてなし越へ国境

上下四り之峠難所都合六り半ニ而泊り

十津川之内太良原村宿屋ニ木賃四百文ニ而

米代半朱此所者米一粒もと連不麦ト高ライ

キビ斗食物ニ而米高直之地也、紀州新宮の

取寄十三里斗運送致候所也、米壹升八百文致候

五月朔日朝出立壹里山道歩行夫の

上下三里之峠直様上下四り之峠

(037)

誠ニ難渋之道ニ御座候人通行もなく

漸壹日之内五六人ニ逢申候 大和路者三六ニ候

乍併今日者極上天気ニ而悦申候道法り

都合八里ニ而大又村ニ止宿仕候 此地も米

不取畑も無之村中之渡世ニハ白箸致居候位之

地ニ候得共高野山麓之事故米壹升ニ付五百七拾文

宿料ノ式人合ニ而壹朱払

五月二日上天気朝出がけに峠上下三里之山斗也

夫の高野山へ登山仕候、奥之院金剛峯寺

御納経貰ふ、夫の下向三里出て九度山村

地藏様へ参詣、御納経土砂ト施行ニ而貰ふ

同所真田幸邑之旧跡ニ而即療所有之候

九度山村傘屋職人ニ納札式拾枚余貫
夫〇慈尊院此寺ハ弘法様御母公
御療所ニ而此所ニ而も御納経貫ふ

造用〆百五拾文斗道法〆八り半峠式ツ
同日泊り慈尊院村角屋長五郎方ニ而

木賃九六三百文米代九六式百七拾文払
三日上天気也朝出立直ニ紀の川渡し有

夫日槇の尾迄五里極山路ニ而難渋也夫〇
観音様拜礼夫檜原越百丁粉川道へ出

大久保村孫兵衛方へ一宿善根也、其上麦
六七合斗ト貰ふ、米代三百文斗払

ふとんハなく候得共誠ニ心切之人柄ニ御座悦敷
此日造用〆百文斗
四日朝出立少、日雲り昼時降夫日ふらす

(038)

四日大久保村〇粉川寺迄四り有之
観音様参詣誠ニ結構之伽藍ニ御座候

夫〇根来寺不働様へ参詣此所迄三り
夫〇若山御城下十丁斗手前大田村

西永吉三郎ト申方ニ一泊り相頼候所
速ニ承引食事迄貰ふ蒲団蚊帳共

結構之品被下候此村ニ而所帯相応ニ
能キ由ニ相見へ申候、幸宵節句ニ而

志よぶ湯も入悦申候弁当も呉ル外ニ
阿波札壺匆ツ、呉ル百匆壺両也道法〆

五十丁十里

一 五月節句朝同人方出立、昼前くもり

昼後上天気、紀三井寺へ参詣、昼前

日前宮様へ参、紀伊一ノ宮也

加太淡嶋様参詣

和歌山御城下見物仕候、山城也

泊り加太浦河内屋四郎衛門方与木賃三百文
米代半朱斗掛り内浦酒造家ニ而六拾文貫

一六日雨降ニ付船不出ニ付逗留致甚夕
難義兩人合て麦一升買代三匆五分ニ而
銅錢拾四文也、宿ニ而煎粉ニ致し申候

兩日造〆式朱斗
一七日天気ニ付朝加太浦出帆七つ時阿州
むや浦へ着船、夫〇壺り半斗出ル

(039)

船賃上三朱、通例式朱之処我等
壺朱ニ而頼是ハ下也、泊り者

山路村吉川助次郎ニ而夕飯ト
宿ト貰ふ、米代式百五十文斗

一八日上天気

老はん靈山寺 釈迦如来

式はん極楽寺 阿弥陀如来

三はん金泉寺 釈迦如来

四はん大日寺 大日如来

五はん地藏寺 地藏菩薩

六番安楽寺 薬師如来

七番十楽寺 阿弥陀如来

〆御納経諸入用〆半朱斗

同日泊り、藤原村国蔵ト申方ニ

頼申候酒斗り也、米代式百五拾文斗

九日上天気也、朝出立

八はん熊谷寺 千手観音

(040)

九はん法輪寺 釈迦如来
 十はん切幡寺 千手観世音 同所稻荷屋国次ト申方へ
 荷物預ケ給单物志ばん
 おいするたら助西国御頼并石
 二見忠兵衛ト預ケ

十一ばん藤井寺 薬師如来

大師様古跡柳水庵ニ而泊り

此所者十二番焼山寺迎藤井寺

百二拾丁山中候其六拾丁行候

所ニ此庵有之候、水なき所

ニ而難渋ニ候間大師様加持水

有之候地也是ニ而御燈明料ト

し而阿波札老々ツ、上納、米麦代共

半朱斗

十日朝出立上天気

十二ばん焼山寺虚空蔵菩薩參詣極山中ニ而

上下七里斗之山中ニ御座候、夫

十三ばん一之宮奥之院ニ參詣

此地誠ニ結構之地也、行場も

有之候、金鎖岩ニかけ候所も

有之候、壹尺四寸金鎖廿六有之候

(041)

式十一

はし子ニ而上下致候所も有候

此岩壁凡五丈斗上れ八人拾五人

斗居れ候底有、其上三四丈も有之候

夜中ふり申し候

十日泊り丹羽多村波左衛門隱居家接待宿頼

十一日朝出立少々降申候、格別邪魔ニ成不申

十三はん一之宮大日寺 十一面観世音

十四番常楽寺 弥勒菩薩

十五番国分寺 薬師如来

十六はん観音寺 千手観世音

十七はん井戸寺 薬師如来

昼前三人合て老々貫ふ

昼時いりこ老はい貫ふ

朝紅花種貫ふ

阿波徳島城下佐古町八丁目

松本辨次郎方ニ宿貫ふ、此内北堂ニ候也

西国巡拝並善光寺参り由ニ而京都十九はん

革堂ニ而始而面会致候所、貴殿方四国巡拝

被成候由候、我等方ニ而宿遣し候間、此ニ尋来ル可

ト被申ニ付楽ミに致罷出候所、約速ニ不違

宿被下誠ニ預御馳走難有奉存候

(042)

馳走も格別之事もなく候へ共、我等道中宿

あまり不自由ニ致居、日々麦飯斗ニ候間、誠ニ

結構ニ而大師様御恩ト難有御事ニ御座候

十二日雨大降、同人方あまり心安く被仰下候間

一日逗留致、帰国次第御礼書状差出可申本意

此日飯四へん昼後上茶入茶菓子等呉ル

此家植木鉢大小共合七十有、内小寸之者

金あみかけ有、松大木鉢四ツ有其外色之鉢

数多有石志鉢五つ有石臺鉢三ツ有内式ツ上

誠ニ面白キ事也、土砂加持式ツ高野山御供等呉ル

日は暮る雨は降のゝ道すがら

暮る旅路を頼む笠守

此御永歌毎朝三へんツ、唱へ候八宿
差支なし尊むへし尊むへし

右同人方ニ而習ふ、十二日夜記ス

那智山御永歌之内是も日々三へんツ、唱へし

三どくの罪は何程深く共

大悲の誓ひあらんかきりは

右松本辨次郎植木鉢大小合七十内小式十は

金あみかけ有大五ツ斗松大木、誠二面白木也

其外石臺鉢四ツ内式ツ上也石志よ鉢

六ツ内五ツ程結構也、植木鉢空拾三有

前二記し有候得共又調記ス、梅干式三十斗

焼塩めんはわらんし等呉ル

(043)

一十三日朝上天気出立、徳島金毘羅様参詣

十八ばん恩山寺 薬師如来

十九ばん立江寺 地藏大士

一大阪南堀江新江橋東角

阿波屋久兵衛

参州豊川稻荷様御札請

徳島佐古町八丁目

松本弁次郎方迄

送り候御守、前二記ス大阪

彼家迄差出置様被申候

十三日泊り櫛櫃(櫛淵) 村菊蔵方ニ

善根宿貫ふ、家小二候得共心ざし

宜敷人也、おしる呉ル、朝みそ呉ル

十四日朝出立上天気、甘番奥之院

灌頂滝朝四ツ時不動尊御来光有之

幸拝見仕候、難有事ニ御座候、夫又

奥之院迄八丁、又穴行迄三丁有、極大岩
有、穴も奇妙之穴也、岩谷也、本尊十一面様也
灌頂滝八十丈斗之石壁也、誠二結構也
甘番鶴林寺の五十丁式里奥也

(044)

十四日

一式拾ばん鶴林寺 地藏尊 十八丁上り

同泊り同山茶場ニ而飯焚、本堂前

ニ而通夜、翌朝出立

十五日朝出立、上天気、山下り川渡し有

式拾壹ばん 太竜寺 虚空蔵尊

三十丁斗末ニ而竜之穴有、抑

此穴深サ不知、奥広キ、水大鶴目川

ほと出ル、奥ニ大師様勸請仕有

此大師様剣御持被遊候、今二竜居候

由、大竜寺役僧被申候、女人禁制

同泊り荒田野村庵ニ泊り料

八分ニ而頼ミ申候

十六日朝出立上天気

式拾二ばん 平等寺 薬師如来

同所奥之院壺里斗末也、金口峠ニ有、此所

七不思議有、念仏岩即此所有、大キサ

上之石、凡壺間四方位之石、下石ハ又夫の

大キ也、式つニ而引切之様成居候

式十三ばん 薬王寺 薬師如来

(045)

阿州札所是ニ而仕廻也 阿州入用壺両三朱也

泊り奥川村由平方ニ善根貫ふ 下上

十七日朝出立上天気、阿州八坂八浜迄坂八ツ
浜八ツ有、外二峠四ツ、五十丁八里半斗之間二
峠以上拾式越し申候、様々草臥申候

同泊り獅子喰浦山本嘉次郎善根下

此所獵師也、阿州・土州国境也

十八日朝出立上天気也、五十丁九里

此所阿州土州国境也、獅子喰

土州甲浦、夫の三里斗南へ行ハ

飛石・はね石・ころころ石難渋

之通筋、海辺牛馬通行なし

此日峠四ツ

泊り志比奈村慶蔵 中下

薩摩芋拾ヲ余貰、宵おかいの

中へ入ル、朝飯之中へ入ル、誠ニ結

構也、此代り御祓大老遣ス、粟耆合斗貰

十九日朝出立、少々曇り候得共雨不降

中頃の芋壺尺五寸斗のび有

馬ヲイキヒ穂出ル

十九日大岩壁海辺面白キ所也

(046)

十九日土佐国 女人禁制之地也

式十四ばん東寺 虚空蔵大士

式十五ばん津寺 地藏尊

同 此寺潰レ同様、納経東寺ニ而出ル

式拾六ばん西寺 薬師如来

同

式拾七ばん神峰寺 十一面尊

此寺三拾六丁上り之山也、権現様

勧請ニ付、仏道廢しニ付西寺へ

有之候得共、観音様御引越被遊候
御納経も西寺ニ而出ル、土州老国ニ
真言宗寺式百ヶ寺余之候所ニ

当时之立居寺十六ヶ寺也、四国

御札所も拾六所ニ候得共、六ヶ寺ニ而

跡ハ廢寺也、当分之所ハ

六ヶ寺ニ而御納経出ル、此旨

東寺ニ而聞申候

同泊り黒耳村八祐ニ而宿頼 中家

廿日朝出立上天気也

神峰へ参詣仕度候処、少々

宿都合ニ而遅ヲ相成候故、本尊拝

御留立之事故、参詣不仕候

(047)

同泊り唐二つ浜岩助宿頼む 極貧家

随分善心之内也

廿一日朝神峰江参詣仕候、朝飯不

喰ニ付、空腹ニ相成難渋仕候、神峰町ニ而

二三軒之善根ニ而助り申候、難有存候

宿迄歸り候処四ツ半時ニ而、夫の出立

上天気也

廿一日泊り赤野浦町家也、中貧家也

山吉屋熊吉ニ而頼む

廿二日朝出立上天気

同

一式拾八ばん大日寺 大日如来

同 此寺廢寺ニ付国分寺支配

一廿九ばん国分寺 千手観音尊

一廿ばん 一之宮 阿弥陀如来

此寺神社二相成、本尊様国寺へ御引越二而候
一一之宮神社へ参詣仕候
一泊り一之宮鳥居前之在所石炭小や

二而老泊り致、日暮之五ツ時ニ漸着仕、誠ニ
難渋仕候、夕飯も朝飯も不喰、四ツ時分ニ

吸江村西田喜蔵方ニ而飯為焚貫ふ

夫〇五台山へ参詣、是即廿三日灰小屋出立後ニ

廿三日朝出立上天気、土州高知是城下也

此所之橋長式百拾六間、此橋中ニ茶屋一ケ所有

(048)

廿二日

三十壺番 五台山 文殊菩薩

三十式ばん 禅師峰寺 十一面觀世音

三十三ばん こうふくし 薬師如来

此寺廢寺ニ而神社ニ相成、本尊様五台山へ

御引移りニ相居候、納経も同所ニ而出ル

同泊り吾川郡東諸木邑内藤寿助

頼候得共、承引致候得共、納屋ニ而休、土間ニ

筵引ニ而寝ル、貧家也、善心薄し

廿四日朝出立、夜分〇雨降出し、昼前者

為指事もなく、昼後大降ニ而甚夕

難儀仕候

三拾四ばん 種間寺 薬師如来

三拾五ばん 清滝寺 薬師如来

右式ケ所共、被廢三拾六ばん青竜寺之支配也

同泊り宇佐浦新町鉄馬方ニ頼 上之中家

廿五日朝出立、昼前むし、昼後上天気

三拾六番 青竜寺 不動尊

宇佐渡し口、入海八丁斗之渡し也

渡し之上り場ニ大家有之
昼飯預善根、宇佐迄打戻り
式十五丁也、峠有、蓮花咲有候

(049)

夫〇八坂八浜有、又佛坂ト云

峠有、此日峠数拾壺越申候

同泊り、幸田村利三郎方ニ

テ芋壺升斗呉ル、中食家程也

阿波ニ而新わしん式足はく

土洲ニ而老足也、両様共善根也

廿六日朝出立、昼前大降ニ而難渋

昼後降ヤミ上気ニ而宜敷御座候

峠五ツ越申候

三拾七番 仁井田五社 不動尊

此所大師堂十八丁へだて有

大師堂ニ而納経出ル、寺ハ士族ニ相成申候

富川と云町家也、道法九里斗也

同泊り、近所野村駒蔵但庄屋指宿也

二十七日朝出立、上天気也、道法十里半斗

峠七八ツ斗越申候

同泊り、四万十川麓竹嶋村ニて役元へ

参り候処けんしき高き主人ニて一刀差テ

出ル、印鑑間ニ合不申由被申誠ニ心痛

致候得共

御大師様御蔭也結構成善根宿

被下難有事ニ候由廣吉ト申家ニ而

宿貫候、此家之本案ニ宿被下候処蚕

之指支ニ付別家ノ宿さして呉ル

夕飯呉ル

(050)

右廣吉家之他家弥次右衛門也惣庄屋

井上何某也弥次右衛門ニ而朝飯卜味噌少々呉ル

廿八日朝出立、曇り候得共不降誠ニ結横也

廿七日夜大變之蚊ニテ迎も寝入事不叶

ニ付廿八日昼寝致ニ付道法七リ斗也

峠七八ツ越申候、極難渋之道也

四万十川幅七八十斗也、朝越ル

同泊り富津浦芳右衛門ニ而泊ル

庄屋龜谷殿指宿也、能人ニ而嬉

廿九日朝出立、雨大降ニ而難渋仕候

廿八ばん 足摺山 千手觀音様

此寺廢寺同様、然共七不思議

有第一ゆるぎ石連五百貫斗之

岩之上へちさき石式ものせ有夫を

をとし候石也其外色々御

座候得共巨細口記候

夫の元之久保津浦へ戻り降ヤミ候間

又参り歩行いふり浦迄出て道五リ

庄や指宿浜平ニ泊り、中貧家也

極山之中ニ而誠ニ難渋也

晦日朝出立、大降ニ而困り入申候

併昼後晴嬉しく存じ山田村ニ而

宿頼候処庄や山奥ニて分り兼

困り申候、折悪敷庄や留主ニ而

日暮し夫の指宿迄十丁斗有

(051)

誠ニ難渋仕候我家之御恩を

能々感シ申候、道法七リ半余
同泊り、山田村義多平ニ而頼
是ハとふでも下役之様子也

六月朔日朝出立、上天氣ニ而誠ニ

難有存候、土佐国都合十三泊り金一分三朱入用

三拾九ばん 寺山院 薬師尊

此寺廢寺俗人納経呉ル

須久毛村ニ而昼飯よはれ申候

其次村ニ而赤飯かしは餅等よはれ

夫のイヨ佐々権現様へ参り

御一新ニ付正木村御下向被遊

ニ付此村之寺ニ而御納経貫

今日祭りニ而氏子一統寺へ

集会酒吞ほふす也、偏路

不残酒待施也此村ニ而色々

善根ニ預り夕飯村長ニ而

赤飯よはれ申候

併権五郎ト分レ甚夕

心配ニ付八ツ半時ニ待居

夫の泊り待居申候

(052)

六月朔日朔日泊り、伊ヨ

正木村庄藏貧家也、中

庄屋指宿也

二日朝出立、曇り、夫の大降ニ而難義

四ツ時のヤミ申候

イヨ四十番 觀自在寺 薬師如来

一此寺ニいさり三七日籠り候処腰立申候

其人また籠り居候夫の上下二ツ峠

難所也此日道法ベ八里半斗也

同泊り神畑寺村弥右衛門方二頼入、貧家也

三日朝出立、天氣、峠式ツ越申候

宇和嶋城下見物仕候

四十壺ばん 龍光寺 十一面大士

四十式ばん 佛木寺 大日如来

道法メ九り半

同泊り即村元名庄助、上中家

改名庄作

四日朝出立、上天氣二候得共七ツ時

夕立致難渋、峠三ツ越

(053)

四十三番 明石寺 千手観音寺

大洲城下見物仕候、道九り半

同泊り、徳之森村久米蔵頼

極善根之家也、中大家

夜大降り、カミナリニ而翌日も大降候

哉与案事候得共、難有事哉五日上天

氣也、彼家二一日逗留可致様被申

唐黍いりこ遣し候間逗留可致様被申

心切之内御座候

五日朝出立、上天氣也、大洲領

極難渋之地也、七八りノ間米不取

麦唐きヒ斗飯米也、此日道法十里

同夜泊り、臼杵村庄屋指宿ニ而

太重郎ニ泊り、貧家なれ共善心

庄や大野薰次郎殿大家也

六日朝上天氣候得共時候障り

二而難渋、無抛老日逗留候処心能

承引致、貧家なれ共善心也

いりこ両三度も呉ル

七日朝出立、天氣二候得共七ツ後

夕立時候、障り少宜敷候間出立

候処漸道五里、誠ニ難渋仕候

(054)

七日

一四十四はん 観音大士 菅生山

同

四十五ばん 不動尊 岩屋寺

此寺古今珍敷岩山也、四国第一之山ト申事

御座候、奥之院岩穴有此中ニ大師御加持

水有、また奥おしわけ岩有、其上ニ

金鎖五十八斗式れん有、其上ニ式十壺の

はし子有、是即行場也、本堂之根ニ

法花仙人の行場有、此はし子十七有

同泊り、岩谷山通夜堂ニ泊り候処

ぐれ拾四五人斗同宿致是も修行哉ト

存込一泊仕候

八日朝雨降ニ付惣身も勝れ不申ニ付出立も

延引四ツ時出立、夫ニ不降此日三里步行

誠ニ病氣ニ而難渋、同夜格別腹痛致

雨も大降也

中家也

同泊り、東明神邑正岡与左衛門ニテ

宿遣候ト先方ニ被申難存候、即庄や

指宿も有之候得共先此方ニ而貰ふ

宵不喰朝一飯貰ふ、弁当残り痛ニ成

勿体なき事恐入候

九日大曇り二候得共出立、病氣不快

二付延刻仕候、極上気也

四十六ばん 浄瑠璃寺 薬師尊

(055)

四十七ばん 八阪寺 阿弥陀如来

四十八番 西林寺 十一面觀世音

四十九番 浄土寺 釈迦如来

此寺の十五丁斗手前之村二而宮様

之拝殿二而泊り可申ト決心致候処

此御守之人堅く制止、無抛其辺之

茶屋二而飯為焚貫、日暮候得共

幸月夜二而彼寺迄参り本堂ノ

通夜致候、燈明料八分ツ、ト申処

色々願ひ兩人二而六分二而頼申候、道法四り斗

十日朝出立上天气也、病氣全快

難有奉存候

五拾番 繁多寺 薬師如来

五拾壹番 石手寺 瑠離光尊

道後江四ツ時分着直様掛拔之積り候処

愚連者共逗留致居留候間不叶入湯

道後町讚岐屋方二而木賃代式匆五分

十一日出立、早朝上天气、松山城下見物、山城也

五拾貳番 泰山寺 十一面觀世音

五拾三ばん 円明寺 阿弥陀如来

菊間大師様四十式才御年厄除之為

御自作也堂結構也、茶堂有も

同泊り、菊間浦西町利七二頼

(056)

右利七貧家也、此日道法八里半斗

十二日朝出立、極上天气也

五拾四ばん 延命寺 不動明王

五十五番 別宮 大日如来

五拾六ばん 泰山寺 地藏菩薩

五拾七番 八幡栄福寺 阿弥陀如来

此寺神祇二付廃寺同様二而当時俗人留主

居致候

五拾八番 佐礼山 千手觀世音

同泊り御山の上新谷村清七二而頼

道法六り、右上中家

十二日朝出立、上天气也

五拾九番 国分寺 薬師如来

大師御来迎白井水結構之麗水有

此池二大師様御姿拜メ申候、楠村也

新町ト申町屋三原屋方わらんし

式足接待二預り申候

生木地藏尊大師一夜之御作也

楠の中ニ御尊像有之候、右御耳無

故ニ耳の願は成就致候、今井村也

六拾壹番 香園寺 大日如来

六拾貳ばん 一之宮宝寿寺 觀音大士

(057)

此寺六拾壹ばんへ内込納経も此所二而出ル

同泊り南川村貧家二而飯為貰ひ

同村少宮様二而通夜致

十四日朝出立上天气土用入也結構也

六拾番 横峰寺 阿弥陀如来

此寺石鎚山前札之寺ニ而今般神社ニ相成候
小松清楽寺へ札所被仰当時清楽寺ニ而
納経出ル

六拾三ばん 吉祥寺 本尊毘沙門天王
六拾四ばん 前神寺 蔵王菩薩

麦いりこ壺はい接待有之外ノ茶所ニ而
同泊り舟木村中屋敷庵へ一泊頼

夜分雨降百姓大嬉結構之雨ニ御座候
十五日朝出立、上天気也

六拾五ばん 三角寺 十一面尊
同泊り、芋田村西川清吉

百五拾文木賃出ス道六り半
十六日朝七ツ時出立天気也

六拾六ばん 阿州雲辺寺 觀世音
六拾七ばん 讚州小松尾寺 薬師尊

同泊り、江崎村駒蔵ニ而頼善根
道法々七り半

(058)

十七日朝出立、天気也

六拾八ばん 神恵院 阿弥陀如来
六拾九ばん 觀音寺 觀世音

七拾ばん 本山寺 馬頭觀音
七拾壹ばん 弥谷寺 觀世音

八ツ時少々立
七拾貳ばん 曼荼羅寺 大日如来

七拾三ばん 出釈迦寺 釈迦如来
七拾四ばん 甲山寺 薬師如来

七拾五ばん 善通寺 薬師如来
同泊り、善通寺門前松木屋伊蔵

木賃式匆ツ、ニ而泊り、道法七り余
十八日朝出立、上天気也

金刀比羅様参詣、式步御札御守料
昼後大夕立、此時金倉寺ニ而凌キ

七拾六はん 金倉寺 薬師尊
七拾七ばん 道隆寺 薬師尊

(059)

七拾八ばん 道場寺 阿弥陀如来
同泊り、道場寺門前玉や悪宿也、木賃代

老匆八分ニ而泊り、道法々七り半也
十九日朝出立、上天気也

七拾九番 崇徳天王社 神社ニ相成申候
八拾番 国分寺 觀世音

是〇遍路坂難渋也
八拾壹番 白峰寺 千手大士

八拾貳番 根香寺 觀世音
右式ヶ所共極山中ニ而道難渋也

同泊り、笠居宿植野屋ニ而木賃式匆ニ泊
上宿也、道六り余

廿日朝出立、十九日〇又
時候障り致此日斗ニ而あらあら

全快仕候得共跡四五日も勝れ不申
難義

八拾三番 一宮寺 觀世音
此寺近々廢寺之由

八拾四番 屋嶋寺 千手大士
八拾五番 八栗寺 正觀音

二ヶ所共難渋之山也
同泊り、八栗山宮助居、商売茶屋也

是二而善根二泊り申候

(060)

廿一日朝出立、上天気

八拾六ばん 志渡寺 十一面大士

八拾七ばん 長尾寺 聖觀世音

八拾八ばん 大窪寺 薬師如来

此日いり施待ニ預申候、接待五ツ

御座候得共我等延引致候故一ツ貫申候

同泊り、大窪寺門前高野や四郎治

ニ而木賃四分払

廿二日朝出立、上天気也、切幡寺へ預ケ

置候荷物取ニ参り候、此間五り有

夫の徳島へ趣キ申候

同泊り、阿州道城村おこまつ方ニ

泊り申候、極小家也、ぐれ宿ニ而

甚夕迷惑仕候、ぐれも壱人止宿致

居申候

廿三日朝出立、上天気也

此日四ツ時前ニ権五郎殿ト分れ

下拙徳島松弁方江趣キ権五郎殿

むや江趣キ兩人共相分れ申候

(061)

八ツ時松弁方江着致又候

預世話候是全く大師様の御

かけト憶申候、廿四日上天気ニ候得共

逗留、廿五日上天気、朝出立

松弁方ニ而色々世話ニ相成候、船乗場

大阪荷送り、其外洗濯迄世話ニ相成候、我等病中之

事故色々地走も致候

大阪南堀江新江橋東角

阿波屋久平

阿州 但愛国屋

津田儀右衛門船

廿五日、津田浦増井儀三郎方へ着

海上荒波ニ付渡海なし、一日彼方ニ逗留

廿六日、上天気

廿七日、上天気、極暑

廿八日、上天気

廿九日、上天気

七月朔日、上気、六夜泊り、善根也

二日、上天気、出船、同夜紀州加多ニ泊り

尤沖也

(062)

七月三日、上気也、泉州岸之和田沖泊り

四日、雨降、堺迄着船仕候

夫の大阪迄罷出道頓堀大伊ニ

泊り、宿料弐朱

阿州の大阪迄運賃老歩三朱也

五日、雨降、朝出立

廿四ばん 中山寺参り、茶堂ニ而通夜、五日泊り

六日、朝出立、上天気

廿二ばん 惣持寺参詣、同寺茶堂

同泊り、同寺ニ而通夜致、蚊沢山難渋、蚊帳

かり候得共ヤブレ有候

七日、朝出立上気

柳谷観音様参詣、眼病成就之御誓願也

み仏のなひく柳乃谷水は

くむにおひせぬ葉なりけり 御詠歌也
右柳谷の籠り人眼病之人斗
三四拾人も有之候、格別の御はつこ也
式拾番善峰寺へ参詣、夫
松尾様へ参り詣、日暮難渋、鳥居前

(063)

茶や□松尾方神主越後ト申人
神妙ニ頼呉此家ニ而一宿致、誠ニ難有
同夜鳥居前ニ野宿仕積り致
候得共右同断之訳合ニ嬉敷存候
夜中格別大雨降仕尚更難有候

メ

八日朝出立、大雨降難渋、九ツ時
京都近彦へ着致候

九日十日都合三泊り十一日七ツ
時前ニ出立、大津葛多方ニ

止宿、同夜四ツ時乗船致、但し

塩津船也

葛多宿料老朱ト式百文、片旅籠也
夫ニ順風ニ而都合能十二日八ツ時
塩津浦江着船仕候

同浦ニ而弁当致、疋田長谷川
惣右衛門方ニ一泊致、宿料

(064)

式朱式百文、少々高料也
十三日朝出立、敦賀鍋金ニ
用向有之ニ付同所へ廻り

新保宿ニ而昼弁当
夫ニ今庄へ暮六ツ時着
仕候

迎人 次助 岩市

是ハ河内や名代兼勤

河内や 冬

庄三 みつ

メ 但し□□迄来ル

右道中日数都合

百三日而帰国仕候

金子入用高拾式両式歩斗

但し土産物少々買候分も

入候メ也

ろはぶ

▼m2378▲は焼